

## 防災教育を中心とした実践的安全教育総合支援事業成果報告書

教育委員会名：一関市教育委員会

## (防災に関すること)

## I 想定される主な災害とモデル地域選定の理由

本市は、県の南端に位置し、南は宮城県、西は秋田県と接している。西に須川岳（栗駒山）をのぞみ、市内には、北上川、磐井川、砂鉄川が流れ、自然に恵まれた地域であるが、市全体が広域となり、自然災害に対する防災に関しては、それぞれの地域に応じた課題が存在している。

本寺地区は、一関市の西側、須川岳（栗駒山）の麓に位置している。この地区は、平成 20 年に岩手・宮城内陸地震が発生し、山体崩壊や土砂崩れの被害、また橋の崩落などにより道路が閉鎖される災害が起きており、地震災害を想定した防災教育が行われてきている。

本事業においては、平成 27 年 12 月 10 日「活動火山対策特別措置法の一部を改正する法律の施行について」を受け、須川岳（栗駒山）の火山活動に対する防災教育の必要性から、学区である本地域において、高い防災意識の基礎を築くための学習を推進するとともに、自ら進んで考え行動できる力を育成することをねらいとして事業を実施することとした。

## II 取組の概要

## 1 事業の概要（本寺中学校）

「いわての防災スクール」として一関市立本寺中学校を指定し、地域で発生が想定される火山噴火を、これまでの防災教育の内容に新たに取り上げ普及を行う。また高い防災意識の基礎を築く学習を推進するとともに、自ら考え行動できる力の育成を図る。

## 2 事業の取組内容

## (1) 復興教育取組計画の共有と実践

ア 「防災・復興の日」（毎月 11 日付計 12 回）の設定

イ 副読本を活用した授業の実施

## (2) 栗駒山の噴火を想定した防災学習

本寺中学校全生徒による、総合的な学習の時間を中心とした学習

ア 防災教育講演会（6 月 9 日）

防災アドバイザーによる栗駒山の特徴や最近 1 万年間に起こった噴火について学習会を実施した。災害時の被害の様子を想定するた

めに、近くを流れる磐井川の地形を実際に確認し説明を聞いた。

## イ 栗駒山昭和噴火聞き取り調査（7 月 6・7 日）

1944 年の噴火について、当時の様子を知っている磐井川流域に在住する方に話を聞き、被害状況をまとめた。



## ウ 防災体験（7 月 12 日）

岩手県立総合防災センターに行き、「自然災害に備える」と題した講義を受けた。また、暗闇・煙体験、救助袋による避難体験、放水体験、地震体験や心肺蘇生法を学んだ。

## エ 防災アドバイザーによる学習会

## i) 栗駒調査登山（9 月 2 日）

「火山についての基本的な知識」「栗駒山の過去の噴火と災害状況」について、可能な範囲において現地調査をし、火山噴火、水蒸気爆発等への理解を深めた。

## ii) 栗駒山調査報告会（11 月 7 日）

栗駒山調査登山、栗駒山昭和噴火聞き取り調査で学習したことをまとめ交流した。また本地区で想定される火山による災害に係る地域防災について、防災アドバイザーから助言を受けながら協議した。



## オ 災害発生時の対策調査（10 月・11 月）

災害発生時の対策について調査し、家庭や地域防災の取組について考えた。

## カ 防災学習の成果発表会（12 月 13 日）

本地区にある骨寺村荘園交流館シアターにおいて、地域の方々や聞き取り調査に協力し

ていただいた方を対象に、調査結果と災害発生時の対策について発表した。

また「防災のために家庭で取り組んでいることや地域の一員としてこれから何をすべきか」というテーマでパネルディスカッションを行い、地域の方と「そなえる」という視点で考えを共有した。



### (3) 復興支援フラワーロード活動の取組

#### ア フラワーロード活動

陸前高田市の国道添いの花壇の整備を行った。自主的に行動する態度を育てるために、花の苗の購入費を得るため、生徒会主催の募金活動を行った。

#### イ 講話「震災時の様子と震災発生時の行動」

東日本大震災当時高校生だった方から当時の様子と震災発生時の行動について講話いただいた。

## III 取組の成果と課題

### 1 成果

#### (1) 栗駒山の噴火を想定した防災学習

##### ア 防災教育講演会

栗駒山の過去の噴火の様子と最近の山の様子を聞いたり、近くを流れる磐井川の地形の特徴から想定される噴火時の災害を考えたりすることで、生徒たちの「栗駒山」の見方が変わり、防災に対する興味や関心をもつ機会となった。

理科の学習との関連が、思考を深めることにつながった。

##### イ 栗駒山昭和噴火聞き取り調査

当時の様子を知る人にインタビューをし、磐井川から北上川流域の被害状況を地図にまとめることで、災害の実態を知るとともに地域の防災について考えを深める機会となった。

##### ウ 栗駒山調査登山

栗駒山の現在の状況やその痕跡を確認することで、火山噴火や水蒸気爆発の理解を深め

ることができた。

また、景観の美しさや温泉など、栗駒山から受ける恩恵にも目を向けることができ、ふるさとの良さを実感し、地域と関わりながら防災を進めることに気付く機会となった。

#### エ 防災学習成果発表会

地域の方々と防災について考えを共有し、家族や地域の一員として災害を想定した備えについて考える態度や、地域や自然（栗駒山）と共存しながら防災を考える態度が育った。

#### (2) 防災体験

災害時の行動について、講義や体験を通して、救命や減災に対する知識を得たり、災害時の行動に結びつく判断力を養ったりする機会となった。

#### (3) 復興支援フラワーロード活動の取組

被災地の復興の状況を見ること、震災の教訓を聞くことで、命の大切さを考え被災地に思いを寄せる態度を育てることができた

## 2 課題

#### (1) 災害に対する実践力の育成について

本年度の取組においては、家庭を中心とした防災意識の向上については十分に満足できる結果となったが、実践について検証する場を設けることが十分ではなかった。今後、災害時の被害をどのように少なくするか、減災の意識を育てるための調査と実践を取り入れた学習内容と検証の機会を考えていく必要がある。あわせて、全ての生徒を通しての地域全体の防災意識の高揚も推進していきたい。

#### (2) 地域で想定される災害の学習について

防災学習をさらに充実していくために、今後も専門的知識を得ることができる大学関係者や実際に復興に携わってきた関係者（消防・警察・被災地の方々）を学習活動に積極的に活用していきたい。

